



金井東裏遺跡

世紀の発掘638日全記録



金井東裏遺跡は、吾妻川右岸の榛名山北東麓に形成された扇状地の端部にあります。



新たな発見の連続

平成25年度に続けられた発掘調査の結果、「甲を着た古墳人」の他に「首飾りの古墳人」、そして幼児、乳児と合計4人、火砕流で被災した人たちの骨が発見されました。道に残された足跡や馬の蹄跡の様子からは、榛名山が噴火した当時、たくさんの人々や馬もいたことがわかります。

そして、火砕流の下から竪穴住居や平地建物、畠、祭祀遺構、古墳などが発見された他、赤玉や馬の飾り金具の剣菱形杏葉などが出土しました。今回の発掘調査を通じて、古墳時代の人々とその生活、そして、ムラの様子を知る上で貴重な情報を多く得ることができました。

平成24年11月19日の大発見

渋川市にある金井東裏遺跡は榛名山の北東麓に位置する遺跡です。上信自動車道の建設に伴い、平成24年9月から発掘調査が始まりました。

平成24年11月19日、6世紀初頭に榛名山の噴火で発生した火砕流により埋もれた溝の中から「甲を着た古墳人」が見つかったのです。国内初、火砕流に被災した古墳人の大発見となりました。

「甲を着た古墳人」は31号溝の中にうつ伏せの状態に倒れ、榛名山の噴火で発生した火砕流により覆われていました。周囲からは、2号甲、鉄鍬、鉄矛などが一緒に発見されました。



「甲を着た古墳人」の1mほど西側からは、2号甲と鉄鍬が20数本出土しました。

「甲を着た古墳人」について、より詳しく、より細かく調べる

「甲を着た古墳人」は、平成24年12月に周囲の土ごと切り取られ、群馬県埋蔵文化財調査事業団内の保存処理事業室に移されました。その後、九州大学の田中良之先生の指導により詳細調査が進められました。

「甲を着た古墳人」は、身長163cmの成人男性で、両ひじをまげ、両膝を付き、うつ伏せの状態に被災していたことがわかりました。平成25年11月に頭部のCTスキャン撮影を行ったところ、頭骨の下に横刃板鋌留衝角付冑があることが確認されました。

「甲を着た古墳人」が着けていた甲は小札甲と呼ばれるものです。小札と呼ばれる小さな鉄板を800枚から1000枚ほどを組紐や革紐などでつなぎ合わせて作られたものです。

平成25年12月に2号甲(小札甲)の詳細調査を実施しました。内部に詰まっていた火砕流を取り除いたところ、内部から骨製の小札(長さ6.6cm、幅約3.0cm)がつながった状態で見つかりました。これは日本国内ではじめての発見で、類例は韓国の夢村土城で見つかった1例だけです。

「甲を着た古墳人」の今後

「甲を着た古墳人」については、「首飾りの古墳人」(3号人骨、成人女性)とともに採取した歯を基にDNA分析を行い血縁や系統などについて調べる予定です。また、食性分析を行うことにより、古墳人が生前食べていた食物の種類が明らかになればと考えています。今後は、これらの分析成果を含めた発掘調査の成果について随時情報発信して行く予定です。

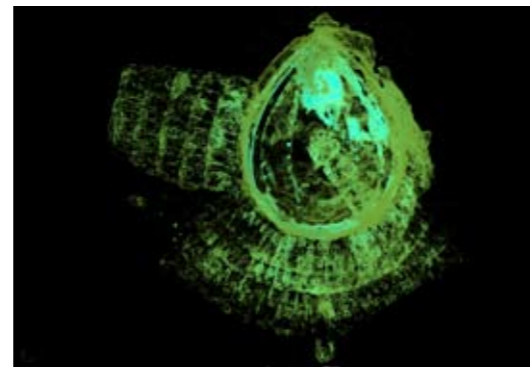
これからも金井東裏遺跡の調査にご注目下さい。



両膝を付き、両手を顔の近くに置き、うつ伏せの状態に倒れていることがわかりました。



「甲を着た古墳人」の腰にあたる部分に、鹿角製の柄の付いた刀子と提碁が発見されました。



小札の鋸と頬当てのついた「横刃板鋌留衝角付冑」であることがわかりました。



骨製小札は長さ6.6cm、幅3.0cm、厚さ0.3cm程で13枚、15枚、17枚の3列構成となっています。



1500年前のあの日 甲を着た古墳人たちがここにいた。



「甲を着た古墳人」はうつ伏せでした。後頭部と左上腕骨が見えています。(南から)

1



4号人骨は2〜3歳の幼児でした。頭を東にしてうつ伏せに倒れていました。(南から)

5



この竪穴住居の床から、朱彩された棒状の石(長さ20cm程)が30個出土しました。(南西から)

6



剣菱形杏葉は長さ16cm、鉄の地板に金銅板を被せた、馬の尻部を飾るものです。(南から)

7



屋敷地内には短冊形畝の畝と、方形畝の畝の2種類があります。(東から)

8



祭祀遺構からは土器とともに白玉やガラス玉など小さな遺物もたくさん出土するため慎重に調査します。(南から)

2



「甲を着た古墳人」が発見された溝沿いの道には、子どもや大人の足跡がみつけられました。

(南東から)

3



「首飾りの古墳人」を九州大学田中教授の指導により、丁寧に調査を進めていきました。(南西から)

4



火砕流で倒壊した平地建物。壁や屋根は火砕流で押し流されてしまったようです。(東南から)

9



赤玉はベンガラと粘土を団子状にしたものです。大きさは直径7cm、重さ400g程です。(北西から)

10



2号古墳も葺石や盛土の一部が火砕流で削り取られていて、衝撃の大きさが実感されます。(西から)

11



1号古墳。西斜面の葺石は、西側からの火砕流で削り取られてしまったようです。(西から)

12